

韓国の国民的画家 李仲燮<sup>イジュンソプ</sup>  
 その鮮烈な生  
 時代と国境を超えた愛と  
 家族のものがたり



劇団文化座公演

# 旅立つ家族



2023年/第334回 旭川市民劇場9月例会  
**9月20日** 水 午後6:30  
**21日** 木 午後1:30  
上演時間 2時間40分(休憩15分含む)  
**会場 / 旭川市公会堂**

入会のご案内	
入会金	2,000円
会費(月)	一般 2,800円
	大学生 1,000円
	中高生 500円

会員になると年6回の演劇を鑑賞できます。詳しくは旭川市民劇場まで。

次例会のご案内  
 2023年10月例会 TOKYOハンバーグプロデュース  
**『へたくそな字たち』**  
 10月30日(月) 午後6:30 作・演出/大西弘記  
 31日(火) 午後1:30 出演/榎谷絵図 吉本穂果 ほか  
 会場 / 旭川市公会堂

旭川市民劇場 旭川市3条通8丁目 緑橋ビル1号館2F TEL0166-23-1655

# STORY

日本による韓国併合の時代に朝鮮北部に生まれた李仲燮(イ・ジュンソプ)は、朝鮮の大地を愛し幼い頃より絵に描いていた。1935年、支配国である日本に渡り、東京帝国美術学校、文化学院美術科で絵を学ぶ。在学中に山本方子と出会い魅かれ合うが、戦局も逼迫して一人、実家のある元山(ウォンサン)へと戻った。思いを断ち切れない方子は終戦間近の1945年、危険な玄界灘を一人渡り仲燮と再会する。二人は結婚、山本方子は李南徳(イ・ナムドク)として生まれ変わり二人の子どもを授かる。やがて第二次大戦は終結するも朝鮮半島は混乱が続き、朝鮮戦争が勃発。身の危険を感じた仲燮は、芸術と家族を守るため、一人残るといふ母に絵を託して元山から脱出する。一家は釜山から済州島にたどり着くが、南徳と子供たちは健康状態が悪化、仲燮を残して日本に帰ることとなった……。



佐々木愛



津田二朗



青木和宣



高橋美沙



藤原章寛

## 文化座 金守珍 初コラボレーション!

新宿梁山泊を主宰する金守珍氏を初めて文化座に迎え、韓国演劇界の第一人者・金義卿氏の代表作に挑んだ衝撃の話題作。芸術への熱い思いを抱きながら、不遇のうちに39歳の若さで没した李仲燮(イ・ジュンソプ)[1916~1956]の半生。彼は死後、1970年代から評価が高まっていき、韓国では今や国民的画家として愛されています。日本占領下の朝鮮半島に生まれ、第二次大戦、朝鮮戦争、南北分断という激動の時代を生きた李仲燮は、日本で絵画を学び、日本女性と結ばれました。その激しい生と芸術、生涯夢に描き続けた家族への愛をエネルギッシュに描いています。



# 旅立つ家族

劇団文化座公演

演出・金守珍  
脚色・佐々木愛  
翻訳・李惠貞  
原作・金義卿

## — 感想より —

公演が終わっての割れんばかりの拍手。私も思い切り手を叩きました。胸一杯で感動しました。イ・ジュンソプさん役の藤原章寛さんの熱演は見事。若い劇団員の人達が機敏に動きまわり作り上げる舞台装置、穏やかで上品な語りの佐々木愛さん、どの場面もさすがプロ。いずれも作品にかける情熱がひしひしと胸に伝わってきました。(福岡市民劇場)

独創的な演出に度肝を抜かれ、イ・ジュンソプ役の藤原章寛さんの演技にグイグイ引き込まれ、エネルギッシュな歌あり、ダンスありで、最後は感激した観客の“ブラボー”の嵐。涙しながらの大拍手は初めてかもしれない。(北九州市民劇場)

感動の時間を与えていただいたことに感謝でいっぱいです。ストーリーにも感動し、役者さんたちの演技に感動し、演出に感動でした。佐々木愛さん演じる方子の語りで回想されてゆく進行も、とてもメリハリがあって感慨深かった。また、朝鮮半島と日本に離れ離れになった時のイ・ジュンソプと方子の思いと愛が感動的に伝わる演出にも感動でした。(鹿児島市民劇場)